

土砂災害・洪水に備え、あらかじめ危険な場所や避難場所を確認しましょう

◆自宅周辺の危険箇所を確認

ハザードマップで自宅周辺にどのような災害が起こる可能性があるかを確認しましょう。

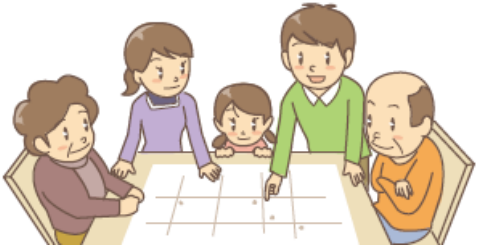
- 自宅周辺が土砂災害警戒区域等か確認しましょう。
- 自宅周辺が浸水区域かを確認し、浸水区域の場合は、浸水深などを確認しましょう。
- ※ハザードマップがご自宅にない場合は、市のホームページからダウンロード、または防災課（市消防防災センター2階）にて入手できます。



◆避難場所や避難経路を確認

避難場所や複数の避難経路を家族で確認しましょう。

- 自宅周辺から避難場所までの経路に危険な場所はないかを確認しましょう。



◆避難情報に注意

警戒レベル（5段階）による避難情報が発表されたら、適切な避難行動をとりましょう。

- 災害の危険が迫っている場合や、災害が発生した際に、防災行政無線などで、警戒レベルを用いての避難情報を発令します。
- これらの情報を踏まえ、適切な避難行動をとってください。

	警戒レベル	とるべき行動	避難に関する情報	自ら避難行動を取る際の情報
危険度 ↑	警戒レベル5 （災害発生）	命を守るための最善の行動	災害発生情報	大雨特別警報
	警戒レベル4	危険な場所から避難 災害発生が迫っています。 ただちに避難を開始してください。移動が難しい場合は、近隣や自宅の安全なところへ避難してください。	避難指示（緊急） 避難勧告	土砂災害警戒情報
	警戒レベル3	危険な場所から高齢者等は避難 災害発生のおそれが高まっています。 高齢者や障がいのある方などは避難を開始してください。それ以外の方も避難の準備をしてください。	避難準備・高齢者等避難開始	大雨警報 洪水警報

気象情報や避難情報などに注意しましょう

◆情報の入手方法

台風の接近や低気圧などによる大雨が予想される
ときは、情報に注意し、避難に備えましょう。



防災行政無線

防災行政無線の放送内容を、電話やメールで確認できます。
(放送が聞き取りにくい、放送を聞き逃した場合など)

① 電話(登録不要、通話無料)  **0120-273-256**

② メール配信(登録制)

右のQRコードを読み取り、
画面内の案内に従って登録してください。

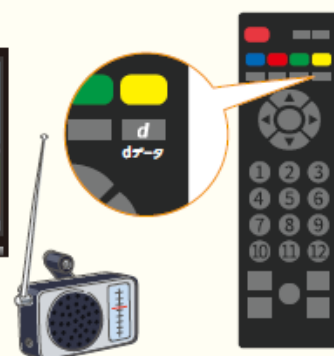


緊急速報メール



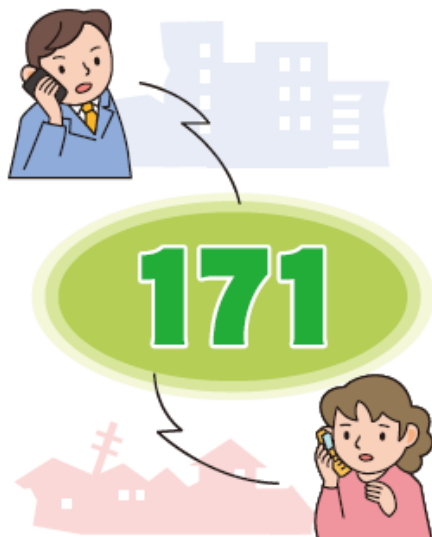
緊急地震速報、避難・
災害情報、津波警報
等が確認できます。

テレビ・ラジオ



テレビのリモコンの**dボタン**を押して、
気象情報や防災情報を確認できます。

もしもの時の 連絡手段



災害用伝言ダイヤル(171)

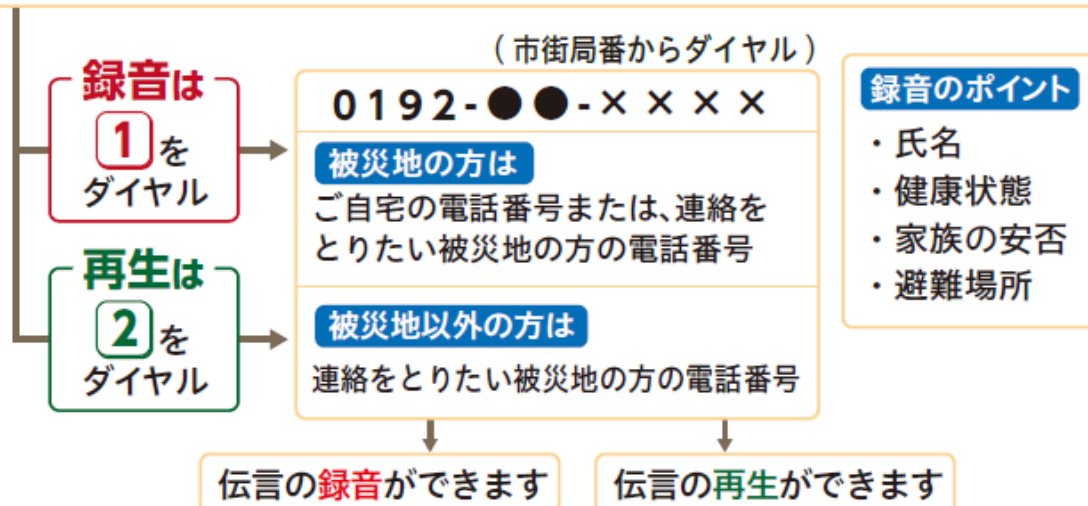
「災害用伝言ダイヤル(171)」は、地震等の災害発生時に、被災地への通信が増加し、被災地への通話がつながりにくい状況になった場合、提供が開始されます。

災害用伝言板(web171)

「災害用伝言ダイヤル(171)」と「災害用伝言板(web171)」との連携により、それぞれで登録された伝言内容を、相互に確認が可能です。

NTT災害用伝言ダイヤル利用方法〈電話で録音・確認〉

☎️ 171 にダイヤル / 171 をダイヤルすると音声による利用ガイダンスが流れます



インターネットでのお手続きはこちら

web171 <https://www.web171.jp>



早めに避難しましょう

通常の避難方法（避難時のこころえ）

家の戸締り、ガスの元栓を閉めて避難する。



ご近所で声をかけ合って避難する。



マンホールや側溝付近は大変危険。



夜間に避難するのは大変危険なため、避難はできるだけ明るい時間に行く。



緊急時の避難方法

土砂災害

がけ崩れ

無理な避難はせず、土砂災害の危険がある場所から離れ、丈夫な建物や自宅のがけから離れた上階などへ避難して安全を確保しましょう。

土石流

危険な沢からできるだけ離れるように避難しましょう。



洪水

○すでに浸水が始まっている場合や、台風などで風雨が強まっているときに外に出ることは大変危険です。

○無理な避難をせず、丈夫な建物や自宅の上階などへ避難して安全を確保しましょう。



避難時には「要配慮者」への支援を
～ノーマライゼーションという言葉のいないまちづくりに向けて～

高齢者

- 声をかける
- おんぶする
- 腕を貸す



車いすの方

- 階段の昇り降りは、3～4人で介助する
- 坂道を降りるときは後ろ向き
- 乗るとき、降りるとき、止まったときはブレーキを！



視覚障がい者

- 腕を貸す
- 段差に注意してゆっくりと歩く
- 盲導犬にふれない



聴覚障がい者

- 筆談
- 顔を見てゆっくり話す



妊婦・乳幼児

- 体調に気をくばる
- 小さな子はおんぶする



外国人

- 身振り手振りで伝える
- やさしい日本語



共助

日ごろから近所づきあいを大事にし、困ったときには助け合える関係を築いておくことが大切です。

